

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標	HIV に対する意識啓発と予防スキル取得によってチェンマイ県の青少年の HIV 感染が減少する。
(2) 事業内容	本事業は、タイ、チェンマイ県内全ての高等専門学校(18校)を対象に『高等専門学校生が HIV/AIDS に関する知識を身につけ、予防意識を高め、感染予防のための行動を取る(安全な性行動、コンドームの使用、HIV 抗体検査の受診等)』、また『ピアエデュケーターと高等専門学校の職員がピアエデュケーター育成とピア教育の手法を身につける』ことを事業目標とした3年事業の2年目にあたる。以下は、2014年8月1日から2014年12月31日までに、第1期とは異なる新たな6校で実施した活動について記載する。事業は計画通り行われた。 ① 高等専門学校職員への事業説明会：チェンマイ県保健局職員、感染症対策室職員と共に第2期の対象となる6つの高等専門学校をそれぞれ訪問した。理事長、副理事長、学校職員に本事業の説明を行い、本事業への理解と協力を得た。 ② 高等専門学校職員・高等専門学校生代表・チェンマイ県保健局職員・感染症対策室への合同事業説明会：関係者65名の出席の下、本事業の開会を宣言し、今後の事業の方向性を確認した。また、第1期対象の高等専門学校から職員やピアエデュケーターが出席し、1年間の知見や経験を共有した。 ③ ベースライン調査：HIV/AIDSの知識や予防行動について調べるため、計120名の学生を対象に質問票調査を行った。この調査結果をベースラインとし、事業終了時に実施する年度終了時調査の結果と比較、事業の成果を測る予定である。 ④ 高等専門学校生ピアエデュケーター育成研修：HIV/AIDSに関する知識を得たうえで、ピアエデュケーターに必要なリーダーシップ能力や活動計画書作成能力等が身につくように2日間の研修を行った。また、HIV陽性者からの話を聞く時間を設け、陽性者への理解を深めた。6つの高等専門学校から計120名のピアエデュケーターを始め、チェンマイ県保健局職員、感染症対策室職員、高等専門学校職員、第1期のピアエデュケーター、大学生ピアエデュケーター等総勢195名が参加した。 ⑤ 高等専門学校の職員を対象にしたピア教育のカリキュラムや教材作成のための会議：第1期に作成したカリキュラムや教材を、第2期の学生向けに改訂した。チェンマイ県保健局職員、感染症対策室職員、学校職員ら計14名が出席した。 ⑥ 学校内ネットワーク月例会議と研修後のフォローアップ：当団体職員が定期的に各学校を訪問し、ピアエデュケーターや学校職員と共に活動案やメディア教材作成について議論し、必要なサポートを行った。 ⑦ ピア教育プログラム企画・メディア開発の発表会：ピアエデュケーター37名が独自のアイディアで企画したピア教育プログ

	ラムや、自ら作成したメディアを発表した。HIV 感染予防を訴えるショートフィルムを 3 校が、チラシ、漫画、学内に設置するコンドーム箱をそれぞれ 1 校ずつが発表し、チェンマイ県保健局職員や当団体職員等がアドバイスを行った。総勢 55 名が出席した。 ⑧ ピア教育活動： 6 つの高等専門学校で計 10 回のピア教育（全学生の 13%にあたる計 974 名が参加）、計 5 回の特別キャンペーン（計 1,050 名参加）を実施した。また、移動検診車を使い、高等専門学校にて計 4 回の HIV 抗体検査（計 115 名が受診）を実施した。
(3) 達成された効果	中間報告時までに、計 120 名のピアエドゥケーターが育成され（年間目標の 50%）、計 974 名がピア教育に（年間目標の 56%）、1,050 名が特別キャンペーンに（年間目標の 105%）、計 115 名が HIV 抗体検査に（年間目標の 115%）参加した。申請書に記載した 6 つの成果指標の達成度を以下に記す。 『指標 1. ピア教育に参加した高等専門学校生の予防意識チェックリスト・HIV に関する知識テストの結果が少なくとも 70 点以上になる。』 『指標 2. ピア教育に参加した高等専門学校生のうち、直近の性交渉において HIV 感染を予防するための行動（安全な性交渉のための話し合いをする・コンドーム使用等）をとる割合が事業実施前より 15%増える。』 『指標 3. ピア教育に参加した高等専門学校生のうち、HIV 抗体検査を受診したと答える人の割合が事業実施前より 10%増える。』 ⇒事業終了時に調査を行うため現状でデータなし。 指標 1、2、3 は、事業終了時に実施する年度終了時調査にて達成度を測る予定であり、まだ成果の確認はできないが、ピア教育に参加した学生の知識テストの平均点が、事前 72 点から事後（教育を受けた直後）94 点に向上していること、また学生から「実践的で分かりやすい内容であった。今後コンドームの使用等、実生活に活かしていきたい。」という声が上がっていることから、事業終了時には目標を達成できると考えられる。 『指標 4. 高等専門学校生ピアエドゥケーターの HIV/STI 知識テスト（目標値：9 割の学生が 90 点以上）、リーダーシップ能力とライフスキルのチェックリスト結果（目標値：70 点以上）が事業開始前より向上し、ピア教育を企画・実施できる（目標値：最終ピア教育が 100%学生のみで自立して実施し、かつ 100%の学校のピアエドゥケーターが次年度のチェンマイ保健局に対する予算申請書を作成する）。』

HIV/STI 知識テスト ⇒56%が 90 点以上

高等専門学校生ピアエデュケーターの育成研修後に実施した知識テストでは、90 点以上を獲得した学生が 56%と、目標に未達であった。多くのピアエデュケーターにとって、HIV に関するトレーニングを受けるのが初めてであったこと、また一部のピアエデュケーターが少数民族出身であり、母語でないタイ語でのテストを理解するのが難しかったこと等が要因と考えられる。今後、ピアエデュケーターが自信を持ってピア教育を実施できるよう学校職員や当団体職員がフォローしていく。その過程でピアエデュケーター自らが知識を深め、事業終了時に再実施するテストで指標を達成できると考えられる。

リーダーシップ能力とライフスキルのチェックリスト

⇒他者評価：1 回目のピア教育実施時には 100%が、2 回目には 98%が 70 点以上。

自己評価：98%が 70 点以上

他者評価として、チェンマイ県保健局職員や学校職員等が採点するチェックリストでは、1 回目のピア教育時に 120 名全員が 70 点以上を獲得した(100%)。しかし 2 回目には、70 点を獲得したのは 80 名中 79 名に留まった(98%)。その理由は、学生から難しい相談を受けた場合、必要に応じて適切な医療機関につなぐ方法を知らなかったピアエデュケーターが 1 名いたためである。また、自己評価としてピアエデュケーター自らが採点するチェックリストでは、120 名中 118 名が 70 点以上を獲得した (98%)。今後、それぞれのチェックリストで 100%のピアエデュケーターが 70 点以上を達成できるようフォローしていく。

ピア教育の企画・実施能力

⇒事業終了時に調査を行うため現状でデータなし。

事業終了時に成果を測る予定であるが、1 回目より 2 回目のピア教育の方が、ピアエデュケーターが自立して活動を行えるようになってきている。また、与えられた予算で自ら活動内容を企画する訓練をしているため、事業終了時には次年度の予算申請書をチェンマイ県保健局に申請できる見込みである。

『指標 5. 高等専門学校職員が 70%以上の活動に参加し、ピア教育手法の知識と実施支援スキルを身につける。』

⇒100%の活動に参加し、知識とスキルを身につけている。

高等専門学校職員は、学内で行われた全てのピア教育や特別活動に参加している (100%)。高い参加率の理由としては、本事業が学校側のビジョンに合致しており学長が協力的であること、職員が他校で実施した本事業第一期の評判を聞いていること、職員が活動を通してピアエデュケーターの前向きな変化を感じていること等があげられる。これらの活動を通し、職員はピア教育の知識と実施支援スキ

	ルを身につけ、適切に自信を持ってピアエドゥケーターを指導できるようになってきている。 『指標 6. 学生の感染予防行動をサポートする学生間と関係者間とのネットワークが構築され、高等専門学校を担当職員が一人につき一人、すべてのネットワーク会議に参加する。』 ⇒ネットワークが構築されてきている。 ピアエドゥケーターは、学校職員、チェンマイ県保健局職員、感染症対策室職員、当団体職員と毎月会議を行っているほか、全員が関係機関のコンタクトリストを所持しており、いつでも連絡できる状態になっている。実際に 83%のピアエドゥケーターが、活動を実施する際に学校職員や当団体職員に相談をしていた。また、第一期の学校職員やピアエドゥケーターも第二期の活動に参加するなど、ネットワークの輪は広がっている。更には、ピアエドゥケーター間でソーシャルネットワークを使った交流が盛んに行われている。高等専門学校の職員に関しては、毎月のネットワーク会議に各学校から 1、2 名が出席しており、ピアエドゥケーターの活動を支援している。
(4) 今後の見通し	本事業は計画通り進んでいる。今後は、残り 8 回のピア教育、7 回の特別キャンペーン、2 回の HIV 抗体検査、6 校にてピア教育ルームの開設、後輩ピアエドゥケーター育成研修等を実施する。事業終了時には終了時調査を行い、上記 6 つの指標の達成度を測る予定である。 各参加校は非常に協力的で HIV/AIDS 教育に熱心である。すでに各学校ではピア教育ルームの場所を確保し、開設を待ちわびている。